

2004（平成16）年度事業報告書

2004（平成16）年4月1日～2005（平成17）年3月31日

1. 財団の機関会議

- ① 理事会 2004年6月19日、第13回理事会を開催し、平成15年度事業報告書・決算報告書、評議員の選出について議決を行った。2004年8月28日には、第14回理事会（臨時会）を開催し、理事長及び専務理事の互選について議決を行った。2005年3月19日、第15回理事会を開催し、平成16年度補正予算書、平成17年度事業計画書・収支予算書、環境再生推進事業積立基金取り崩しについて議決を行った。
- ② 評議員会 2004年6月12日、第9回評議員会を開催し、平成15年度事業報告書・決算報告書、理事及び幹事の選任に関して審議を行った。2004年11月6日、第10回評議員会（臨時会）を開催し、財務委員会などについて協議を行った。2005年3月5日、第11回評議員会を開催し、平成16年度補正予算書、平成17年度事業計画書・収支予算書、環境再生推進事業積立基金取り崩しについて審議を行った。
- ③ 監査 2004年6月8日、平成15年度決算について、山崎博幸監事、村木源二郎監事が監査を行った。
- ④ 事務局会議 常勤職員による打ち合わせを毎週木曜日の午前10時より約2時間実施し、活動の企画運営について話し合いを行った。非常勤を含めた全体事務局会議を毎月第2土曜日の午前10時から行っていたが、2004年10月からは、理事も含めた拡大事務局会議を毎月1回開催し、2005年3月以降は毎月第3土曜日午前10時から約2時間、「水島再生基本計画（マスタープラン）」の検討も含め開催している。

2. 財団の活動

(1) 地域再生

1. 調査活動

①八間川をシンボルとした環境再生活動

生物・水質・流速・底質等の調査などをおこなう八間川調査を年5回おこなった（第21～25回）。従来、年4回の開催だったが、季節を考慮して3月の調査を加えた。調査では、各回で工夫を凝らした内容を行うことにつとめた。調査の結果を活用し、デジタル版八間川魚図鑑（試作品）も作成した。

また、環境学習への協力ということで、地域の小学校が八間川を題材に「総合的な学習の時間」を行う際に協力し、その経験を活かし八間川を題材とした指導案作成を検討した。

本事業では、全労済活動助成（倉敷医療生協環境公害委員会からの委託）、リバーフロント整備センター「川と学ぶ」活動助成を受けた。

八間川調査：4/13（打合せ）6/13（第21回）、8/8（第22回）、10/31（第23回）、1/20（水中カメラ撮影）、1/23（第24回）、3/21（第25回）

環境学習への協力：第四福田小学校 打合せ（6/16・17、7/20、12/9）、授業（6/23・25・28・29、

2. 政策提言・組織づくり

①水島地域環境再生計画（マスタープラン）の検討

「水島地域に循環バスを実現する会」に事務局として参加した。

2003年度から開催している「環境月間における倉敷市との懇談会」を今年度も企画、6月30日に開催した。

また、「岡山・倉敷地域公害防止計画」の改訂にあたり、その内容についての説明会の開催を県に申し入れた。

循環バスを実現する会事務局会議（4/15、6/22）

倉敷市との懇談打ち合わせ会（4/14、5/10、6/4、7/23、9/17）

倉敷市交通政策課訪問（6/21）

「岡山・倉敷地域公害防止計画」説明会（5/20）

②まちおこし“こだわり衆”の組織

水島地域内、特に商店街との連携を図るために、水島おかみさん会との懇談、各種イベントに参加した。また、地域のイベントである水島港まつり（8/6～8）での七夕飾りへの出展を通して、水島商店街振興連盟等とも連携を図った。

2004年6月11日 水島おかみさん会（会長：尾崎さん）訪問

2004年8月6～8日 水島港まつり（七夕飾りを展示）

(2) 公害経験の継承・被害者支援

1. 資料保存

①公害裁判資料の保存・整理方策の検討

資料の収集、整理、保存方策について、シンポジウム、見学会などに参加し、先進事例に学びながら検討した。同時に、裁判資料保存の呼びかけ、倉敷医療生協に保存されていた資料の引き取り、旧患者会事務所を資料保存庫としての整理を検討するなど、資料保存に向けた取り組みも始めた。

2004年7月28日 地域資料学習会（主催：あおぞら財団）参加

2004年10月2日 西山文庫見学

2004年12月4日 朝日新聞社史編集センター 見学

2005年3月19日 資料保存シンポジウム 参加

②地域の公害体験“語り部”活動

倉敷公害訴訟の和解から8周年を記念して、原告弁護団長の山崎博幸弁護士による記念講演、コンサートを行った。当時を振り返り、環境再生・まちづくりの原点を再確認する機会となった。

2004年12月23日 倉敷大気汚染公害和解記念日講演会&コンサート

2. 公害患者の療養生活支援に関する調査

倉敷医療生協 水島協同病院の医師を中心に進めている「倉敷市における公害健康被害補償法認定死亡患者遡及調査」に協力した。また、あおぞら財団が実施した「公健法による高齢被認定患者の療養生活実態に関する調査」（環境省委託）に協力した。

501人死亡調査検討会（6/16、6/30、7/14、8/18、9/22、11/16）

2004年7月25日 社会医学研究会 参加

2004年12月15日 水島協同病院院内学習会 参加・報告

2005年2月18日 公害患者のQOL調査説明会

2005年3月29日 公害患者のQOL調査 参加

（3）公害・環境学習

1. 教材開発、普及

①環境教育教材『温暖化の危機から地球を守る』の普及

平成13・14年度に作成した温暖化防止教育教材は、倉敷芸術科学大学の授業等での活用や、環境活動団体から活用検討の問い合わせがあった。

②公害ならびにまちづくり活動の教材化

水島地域における公害問題やまちづくり活動の取り組み等、地域の特性を活かした教材作りについて検討した。八間川を題材とした総合的な学習の時間での活用について地域の小学校と協議した（（1）-1-①）。また、福田中学校から講演の依頼があり、太田専務理事が行った。

2004年10月8日 福田中学校環境学習講演会

2. 講習会の開催

①環境講座「地球学校」の開催

公害経験や環境問題の情報を広く市民に伝えることを目的に、市民向けの環境講座「地球学校」を8月以降月1回、計8回開催した。環境再生保全機構地球環境基金助成事業と関連して、「海」をメインテーマに様々な分野の専門家を講師に迎え、多様な視点による学習会となった。

2004年8月28日 第1回「エコロジカル・フットプリントについて」（講師：白井浩子（岡山大学理学部臨海実験所助教授））

2004年9月25日 第2回「海岸生物調査について」（講師：小西良平（環瀬戸内海会議））

2004年10月30日 第3回「環境教育におけるコーディネートを高めよう」（講師：住田典子（財団法人広島県環境保険協会））

2004年11月14日 第4回「ネイチャーフォートの視点で水島を見つめよう」（講師：森本二郎（プロカメラマン））

2004年12月21日 第5回「瀬戸内海沿岸の土壌について調べよう」（講師：妹尾護（倉敷芸術科学大学教授））

2005年1月30日 第6回「水島の歴史について学ぼう」（講師：間壁忠彦（倉敷考古館館長））

2005年2月27日 第7回「魚釣りをしよう」（講師：福田憲一（倉敷医療生活協同組合職員））

2005年3月12日 第8回「瀬戸内海の生き物について学ぼう」（講師：浅野甘喜夫（笠岡市立カブトガニ博物館館長））

②地球環境市民大学校への協力

独立行政法人 環境再生保全機構より委託を受け、岡山県下での地球環境市民大学校 環境 NGO と市民の集い「子供たちに伝えたい私たちの環境保全活動」（主催：環境再生保全機構）の企画・運

営を行った。これにあわせて森本二太郎氏による写真展を開催した。

2004年11月14～21日 森本二太郎氏写真展（14～17日みずしま診療所、18～21日瀬戸大橋架橋記念館）

2004年11月20・21日 地球環境市民大学校 環境NGOと市民の集い

3. 水島地域の紹介

①「エコスタディーツアー」の検討

これまで行った視察の受け入れをまとめ、公害地域における「エコツアー」の可能性についての検討を行った。

②コンビナート公害に関する経験の途上国への情報発信

日本福祉大学からの依頼で、発展途上国の行政・大学関係者などが先進事例として日本の現状を視察する「JICA 参加型地域社会開発の理論と実践」（主催：JICA）の視察受け入れの協力をした。磯部理事、太田専務理事による講義や、瀬戸大橋、コンビナートの視察に際し、解説等を行った。

2005年2月22～23日 JICAによる視察の受け入れ

(4) 基本広報活動

①活動交流

交流活動としては、各種団体との交流や、各種事業への運営協力などを行った。

・ 自治研集会への協力

倉敷市自治研実行委員会へ参加・分科会運営協力（9/11開催）

岡山県自治研実行委員会への参加（2005/6/25・26開催）

・ 生き生きフェスタ in 暮らしき実行委員会への参加および展示（8/1開催）

・ GREENDAY2004 及び 2005 実行委員会への参加およびアピール展の参加

・ 倉敷まちづくりネットワークに世話人として参加および台風被害物資支援活動への協力

・ 暮らしきパートナーシップ推進ひろばへの参加

・ おかやま環境フォーラムへの協力

「おかやま環境フォーラム（3/27開催）」において、第1分科会担当団体及び、実行委員会として参加。

・ 暮らしき市民防災会議への呼びかけ団体として参加

・ 京都議定書発効記念イベント（岡山）へ実行委員会として参加

・ その他

2004年4月16日 タウンミーティング（主催：内閣府大臣官房） 参加

2004年4月24日 環境モニター（環境省）説明会 参加

2004年5月7日 岡山エコカレッジ（主催：岡山県）説明会 参加

2004年6月1・2日 全国公害被害者総行動（主催：全国公害被害者総行動実行委員会） 参加

2004年6月3日 岡山エコカレッジ事業ヒアリングで説明

2004年6月14日 JSA 岡山支部定期大会 参加

2004年7月2～5日 中国大連旅行

2004年7月10日 日本交通権学会（大阪） 参加

- 2004年7月18日 八間川コスモス種まき 参加
- 2004年7月27日 資源循環型社会シンポジウム（主催：岡山県）、青空知事室 参加
- 2004年8月23日 若手研究者交流会
- 2004年9月10日 「地域再生支援センター」設立記念シンポジウム 参加
- 2004年9月12～13日 全国公害患者会勉強会 参加
- 2004年10月7日 環境省中国地区環境対策調査官事務所 訪問
- 2004年10月31日 エコフェスタ岡山（主催：岡山県）でパネル展示
- 2004年12月19日 人材養成講座 参加
- 2005年1月13日 夢のある学び場を考える会 参加
- 2005年1月22日 中国環境パートナーシップオフィス開設記念シンポジウム 参加
- 2005年2月5日 倉敷公害訴訟弁護団総会 参加
- 2005年2月25日 ノートルダム清心女子大 白樫久教授訪問
- 2005年3月3日 倉敷医療生協環境公害委員会との打ち合わせ
- 2005年3月10日 指定管理者制度勉強会（主催：倉敷市） 参加

②広報宣伝

- ・ 財団広報紙「みずしま財団たより」の発行
 - たより18号発行（5/26）「平成16年度事業計画、再発見！水島の魅力」など
 - たより19号発行（7/27）「新理事・評議員紹介、八間川情報」など
 - たより20号発行（9/30）「第1回 地球学校報告」など
 - たより21号発行（11/29）「第2,3回 地球学校報告」など
 - たより22号発行（1/1）「森本二太郎さんと語る、環境NGOと市民の集い報告、岡山発、高知の
んびり紀行」など
 - たより23号発行（3/24）「講演記録『子どもたちへの一番大切な贈り物』」など
- 編集委員会
 - 2004年4月7日 たより18号編集委員会
 - 2004年6月10日 たより19号編集委員会
 - 2004年8月6日 たより20号編集委員会
 - 2004年10月12日 たより21号編集委員会
 - 2004年10月29日 たより22号編集委員会
 - 2005年1月18日 たより23号編集委員会
- ・ ホームページによる情報発信

みずしま財団の活動をより広く知ってもらうため、ホームページの内容の充実をはかった。財団の各種事業の紹介とともに、毎回のイベントの案内等も掲載している。また、情報交換の場としての、掲示板の整備も行った。
- ・ 財団発行物

年次報告書1冊、環境改善報告書シリーズ1冊を発行した

 - みずしま財団年次報告書 vol.4 2003年4月～2004年3月（2004年8月）
 - パートナーシップによる環境改善報告書 No.12
「平成16年度 海底ゴミ政策提言にもとづく、パートナーシップの構築による海底ゴミ減

11/4・5・9)

水島小学校 打合せ (6/29), 授業 (7/6)

②瀬戸内海的环境再生に関する調査研究

独立行政法人 環境再生保全機構地球環境基金の助成事業として、これまでの調査活動を継続するとともに、「瀬戸内海環境美化推進事業」での行政、漁協とのパートナーシップ構築のための取り組みを行った。また、今年度から瀬戸内海的环境再生としてのアマモ場の再生に向けた調査研究の検討もはじめ、これらの成果をまとめた報告会を 2005 年 3 月に開催した。この他、海をテーマにした講座「地球学校」の開催 ((3) -2-①参照)、各種イベント・シンポジウムでの情報発信とともに、本問題を市民に啓発するための絵葉書集 (撮影: 森本二太郎氏)、ビデオ等広報素材 (撮影・編集: スタジオ・ククル玄番隆行氏) を作成した。本調査研究は、森瀧理事長、磯部理事、白井理事の主導で行われた。

2004 年 4 月 14 日 海底ゴミ回収・集計作業 (2005 年 3 月まで週 1~2 回)

2004 年 5 月 6 日 寄島町漁協訪問

2004 年 5 月 29・30 日 瀬戸内海国立公園指定 70 周年記念式典 (主催: 環境省、岡山県、倉敷市) に参加、海底ゴミ調査活動に関するパネル展示

2004 年 6 月 15 日 岡山県庁水産課訪問

2004 年 8 月 11 日 日生町漁協訪問

2004 年 8 月 19 日 相生啓子氏訪問

2004 年 9 月 16 日 岡山県水産試験場訪問

2004 年 9 月 20・21 日 浜名湖アマモ場観察会 (主催: 南伊豆海洋生物研究会) に参加

2004 年 10 月 3 日 漂着ゴミ淡路島会議 (主催: (社) 瀬戸内海環境保全協会) にて報告

2004 年 11 月 18 日 海底土壌の採泥作業

2004 年 12 月 23~25 日 海底ゴミ啓発ビデオ撮影 (2005 年 1 月 21~23 日追加撮影)

2005 年 1 月 13 日 寄島町訪問

2005 年 3 月 6 日 エメックス NGO フォーラム in 神戸 (主催: 国際エメックスセンター) 報告

2005 年 3 月 13 日 平成 16 年度 海底ゴミ調査活動報告会開催

2005 年 3 月 15 日 漁業の多面的機能に関する研究会 (高松) 報告

2005 年 3 月 26・27 日 瀬戸内シンポジウム in 広島 (主催: JSA) 参加

③コンビナート周辺的环境改善に関する調査研究

コンビナート周辺の大気環境改善を目指した調査研究活動について検討した。特に近年のコンビナート企業の活性化に伴い、市民参加型での NO2 調査の再開について検討するとともに、近年その経済発展による大気汚染が懸念される中国、大連市と倉敷市との比較調査を行った。

また、ガス化熔融炉、産廃最終処分場等新たな環境負荷となりうる施設の建設に対しても、調査研究を進めるとともに、説明会への参加、環境影響評価への意見書の作成などを行った。

2004 年 7 月 6 日 NO2 測定 (中国、大連)

2004 年 7 月 10 日 NO2 測定 (倉敷市)

2005 年 3 月 15 日 公共関与臨海部新処分場整備事業に関する環境影響評価準備書説明会

量化対策の実証活動 報告書」(2005年3月)

※独立行政法人 環境再生保全機構地球環境基金部助成事業報告書

・ FMくらしき「みずすましの耳」での情報発信

広報活動として、毎月1回第4木曜日のFMくらしき「みずすましの耳」(19:20から約10分間)で財団の活動報告、イベントの案内を放送した。

4月「みずしま財団たよりの紹介」

5月「倉敷市との懇談会、八間川調査の案内」

6月「八間川調査、魚図鑑完成の報告、地域の小学校との協働の紹介」

7月「倉敷市との懇談会の報告、八間川調査・財団たよりの紹介」

8月「八間川調査報告、第1回地球学校の案内」

9月「第1回地球学校の報告」

10月「八間川調査、第3・4回地球学校・NGOのつどい案内」

11月「八間川調査、第3・4回地球学校・写真展の報告」

12月「環境NGOと市民の集いの報告」

1月「八間川調査と玄番隆行さんへのインタビュー」

2月「地球学校の報告と間壁忠彦さんへのインタビュー」

3月「海底ゴミ報告会の報告と相生啓子さんへのインタビュー」

3. 組織

I 事務局

- ・ 育児休暇中だった藤原研究員は、2004年7月から復帰。

II 賛助会員

- ・ 賛助会員の拡大を目指して、たより・報告書等による情報発信の充実を図った。個人会員1口1,000円(2口以上)、団体会員1口10,000円、法人会員1口10,000円(2口以上)。会員には、財団発行物、みずしま財団たよりの送付、開催イベント等各行事のご案内の送付等を行った。

賛助会員数	個人	法人	団体
平成15年度	312口 (123人)	15口 (5団体)	14口 (10団体)
平成16年度	287口 (114人)	15口 (5法人)	13口 (11団体)
平成16年度目標	300口 (150人)	60口 (30法人)	30口 (30団体)